

いっそう元気！東近江

令和5年1月31日に、「いっそう元気！東近江」、各地区の協議体メンバーを対象に「地域を元気にする協議体交流会」を開催しました。

交流会前半では、「いっそう元気！東近江」がどんな協議をしているのか、また、地域の課題を解決するために検討してきた3つのツールの紹介を行いました。後半は、参加者同士での情報、意見交換を行いました。



3つのツールについて、いっそうメンバーより報告

「いっそう元気！東近江」の取り組みを聞いて



●全体を通して

- ・「いっそう元気！東近江」という、市域での話し合いの場があること自体を知らなかった。
- ・第2層協議体に参加し、地区の中で活動をしていても、第2層協議体や第1層協議体のことがきちんと理解できているのか不安。話題提供を受けて、第1層協議体が少し理解できた。
- ・第1層協議体と第2層協議体が連携をしようと思うと、第1層協議体のメンバーが第2層協議体に参画してもらえるとよいと思う。
- ・今回のように、今後も各地区に第1層協議体の活動を伝えてもらえると良い。
- ・市域でも話し合いがされていて、活用できるツールがあることを初めて知った。もっと情報を共有し、地区で活かしていけると、広がると思う。

●寸劇（住民と医療・福祉の専門職がつながるPJ）

- ・寸劇はフレイル予防の観点だが、認知症予防にもつながり良いと思う。自分の地域でお願いしたい。
- ・コミセンには、まちづくり、地域福祉、社会教育を進めて行く役割がある。コミセンに声をかければ、寸劇と一緒にやってくれるかもしれない。
- ・地区や隣の自治会でやっているところがあれば、真似をするところも出てくるので、ひろがっていくと思う。
- ・福祉推進員さんの懇談などでも活用できそう。
- ・サロンでもやろうかなと思ってもらえそう。コロナでサロン活動ができなかったところも多いため、再開するきっかけに使ってもらえると良い。





●いきがい農業のすすめ（農で活躍PJ）

- ・いきがい農業は、若い人へ農作業の伝承にもなるし、世代間交流にもなる。とても必要なことと感じた。
- ・中野地区でも、農業で何かやっていけたらと考えている。そういう意味でも、今日の第1層協議体の取り組みの話が聞けてよかった。
- ・冊子を見ていても思うが、『人が寄る何か』があることが大事！若い人も関わってもらえる。
- ・おすそわけ野菜市いいですね。私たちの地区でもリサイクルマーケットを行ったときは、いつもよりも、多くの方が参加された。おすそわけ野菜市や料理講座は若い人・子育て世帯が参加しやすいと思う。
- ・生きがい農業は、農業している人、してない人、売る人、買う人がいることが大事。
- ・各地区で実施を希望するなら、いっそうのプロジェクトメンバーに相談しても良い。

●ほなイコ（暮らしを豊かにするための外出支援PJ）

- ・永源寺は支所まで出るのに、10数kmかかる地域もある。そこまでの交通手段が課題。市の中心へ行くのに、自動運転車とちょこバスがつながぎ合えば良いと思う。
- ・玉緒の第2層協議体でもおでかけツアーをしたことがある。楽しかった。時間があっという間に経ったという思い出がある。
- ・能登川でもバスを利用して五個荘の紅葉公園へ行った。日頃バスに乗ることがないため、新鮮だった。
- ・バスに乗ろうと思っても、バス停が遠い。活用するのが難しい人が多い現状もある。
- ・生活支援サポーターでは、移動の依頼に対して「まずは公共交通を」としているが使い方がわからないという声も多々あった。こういうのがあるといいと思う。
- ・サポーターの活動もそうだが、一人ひとりの状況によって考えていかないといけないなと感じた。



協議体同士の意見交換での声

●担い手、若い人との関わり

- ・コロナの影響でつながりが切れている状況や、地域で活動する担い手不足など「この先どうなるのか？」とみんな同じ悩みを持っている。
- ・人が集まるきっかけが、たくさんできると良い。担い手を増やすには、まずは「つながり」が大事。自分も声をかけてもらえたから関わっている。
- ・どの集まりに行っても顔ぶれが同じ。どうしたら若い人たちに来てもらえるか。
- ・若い人がこうしたい！と思うことなどを私たちがサポートしていくことが大切。

●地域の支え合い

- ・生活支援サポーターが、それぞれの地区で浸透してきている。
- ・今後は、サポーターとしてではなく、ごく自然に助け合いができるような雰囲気広がっていくと良い。

●今回の交流会を通して

- ・他の地区と交流することで学ぶべきこともたくさんあると思う。これからも地区間での交流が大事になると思う。